

一中学生の最善最高の自覚と実践 NO10(R6.1.10)

○校長より

『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校を目指して』

～三学期(52日間)の取組～

新年早々、大地震により能登半島では甚大な被害が発生しています。刻々と被害状況も伝えられ、多数の犠牲者が報告されています。改めて、自然災害の恐ろしさとともに何事もない日常がいかに大切なのかということを感じさせられました。

そのような中、昨日(1月9日)三学期の始業式を行いました。全員の命が守られたこと、大きな事故・けががなく三学期を迎えられたことを喜ぶとともに、「みんなが安心して笑顔で過ごせる学校」になるよう、三学期もみんなで頑張っていこうということを伝えました。一・二学期を過ごす中で生徒たちは確実に成長してきました。冬休み中には、複数の地域の方から「一中生が気持ちよく挨拶してくれる」という情報が寄せられました。「あいさつ」の良さ・大切さを分かる一中生が増えたことをうれしく思ったところです。

しかし、まだまだ課題もあります。生徒たちへのアンケート調査では、「授業中に私語があり集中できない」ことで困っている生徒も多数いるという結果も出ています。また、「毎日家庭学習に取り組んでいる」生徒の割合も予想していたよりも多くないという結果も出ています。授業(勉強)がわからないと学校生活は楽しくありません。生徒たちに「しっかりとした学力をつける」ことは、学校としての最大の役割だと考えています。「落ち着いて集中できる授業」「家庭学習の習慣の定着」に向けて生徒たちと職員が一緒になって取り組んでいきたいと考えています。

なお、三学期は52日間と今年度も残り少ない日々となっています。生徒同士のつながり、生徒と職員のつながり(信頼関係)を深めていきたいとも思っています。朝の時間の「学び合い」や授業における「学び合い」によって生徒同士の関わりを深めたり、職員から挨拶をしたり声かけを行っていくとともに教育相談を充実させることで生徒と職員との関わりも深めていけたらと考えています。

そのような取組を通して、三学期(52日間)「みんなが安心して笑顔で過ごせる学校」を目指していきたいと思しますので、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

☆最善最高☆
『書写大会』



☆自覚と実践☆
『生徒会役員新旧交代式』

